

おおたかの森駅周辺…児童生徒数は「大きく上ぶれ」と答弁

都市経営の矛盾噴き出す…子どもの生活・発育環境へのしわ寄せは許されません

おおたかの森小中学校でも「教室たりない」

過去、マスクミ等でも人口誘致や自らの都市経営を誇ってきた井崎市長。28年9月議会でも「5年前と比較して、0〜9才までの人口2496人増加、30・40才の人口は5353人の増加で、想定どおり」と一般質問に答弁しています。

しかし、自ら計画段階から立ち上げた小山小学校では、児童数に教室が不足し、開校5年目で校舎の第1増築、そして今年（開校7年目）、第2増築に着手。多額の設計費を投じ学年に応じた教室配置はいかされず、学区変更で友達とも別れることに。校庭面積（児童一人当たり）は一番狭く、保護者から心配する声が聞かれています。

H31年度には「13クラス不足」

H27年4月開校したおおたかの森小中学校（普通教室36、特別教室14）でも市長こだわりの設計であやまちを繰り返すことに…。

おおたかの森小中学校の人口動態

調査では、H30年度1教室、H31年度13教室「不足する」ことを教育委員会が認めました（自由民主党中川弘議員の一般質問）。

しかも、不足する教室に対応して校舎増築となれば、奇抜な学校設計のコンセプトであった『風の通り抜け』は確保できなくなり、普通教室を優先すれば障害等に応じた支援学級の整備にも影響します。

また、設計時、校舎とは別棟で設置予定だった学童保育（定員120名）は、高騰した校舎建設費により、校舎内の特別教室での実施に変更されていましたが、これも難しくなり、対応が必要です。

住民誘致は「継続」を表明 駅前市有地は半分をマンションに

市長は教室不足に「対応する」と表明しますが、住民誘致はなおも最優先課題とし、おおたかの森駅前市有地（1ヶ所）の半分にマンション（14階）を建てる計画（12月議会に議案上程予定）です。また、UR（都市機構）保有地が全てマンショ

ンだった場合、1800戸も増加します。受け皿と計画なしに甘い言葉で人口誘致：都市経営の破たんが子どもの生活や発育の環境悪化にしわ寄せされる事態は許されません。



市議

小田 桐たかし

流山民報（号外）16年9月14日発行
発行：日本共産党流山市議団
連絡先：09085678858（小田桐）

障害者入所施設(相模原市)での殺傷事件をうけて

日本共産党議員団が施設訪問・懇談

「せめて1回、警察の夜間巡回を」



みどり園入所者が作成したキャンドルインテリア等を視察する党議員団（左から3人目が加藤県議）

参加者は、加藤英雄県議と、柏・野田・我孫子・流山の各市議ら9人。施設長から施設概要や利用者の日常生活状況とともに、事件を受けての取り組みとして「改定される国のガイドラインに沿って防犯対策のさらなる強化が必要」「防犯カメラを増やしたり、隣の施設で異常があれば他の施設に連絡されるシステムを導入予定」など意見交換を行いました。また、「夜間帯、1日1回の警察の巡回を」との要望も受けました。

障害者入所施設で数十人が死傷した事件発生を受け、日本共産党千葉県東葛地区委員会は、8月17日、柏・我孫子・流山の3市で構成する東葛中部地区総合開発事務組合の障害者入所施設みどり園とケアホームみどりの家（我孫子市）を訪問しました。

障害者60人まで職員1人、障害者100人でも職員2人という低水準に据え置かれています。そのため、職員は、賃金と業務の負担感に大きな離が生じています。抜本的な改善が欠かせません。

『共生社会』実現に力を集めましょう

相模原市殺傷事件を受けて加害者をヒーロー扱いする声がネットにあふれています。個人の思いや尊厳よりも、障害の有無やその程度だけで、社会にとつての『必要性』を一方的に押し付けられ、線引きされる。しいては命までも奪われて当たり前にこんな社会は本当に怖いのです。

流山市では、今度の事件後、各施設を直接訪問し、セキュリティ強化や職員のメンタル面への配慮等と要請しました。

また、行政や議会、市民レベルで

も、協力し合い、交流を深め、障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重しあえる共生社会の実現に向けた取り組みを広げてきました。

共生社会の実現には市民の関与・協力・理解が欠かせません。ともに実現に力を集めましょ

う。

